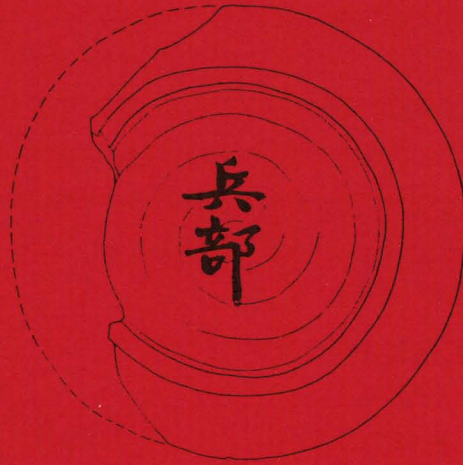


1990年度

平城宮跡発掘調査部
発掘調査概報



1991

奈良国立文化財研究所

正誤表

P.112右下 図67キャプション
S B 10→S B 07に訂正して下さい。

凡 例

1. 本書は、奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部が、1990年度に実施した平城宮跡および平城京内遺跡の発掘調査の概要報告である。各調査報告の執筆は、各現場の発掘担当者などが行なった。また、前年度までの調査で出土した長屋王邸出土の木器については、整理が完了したものについて、本書に概要を収録した。写真撮影は佃幹雄と牛嶋茂が行なった。
2. 第212次調査、第219次調査、第221次調査については本書に概要を収録したが、別途報告書を刊行する予定で、詳細はそれによらるたい。
3. 第216次調査のプラントオパール分析は宮崎大学藤原宏志氏、第212次調査の脂肪酸分析は帯広畜産大学中野益男氏に依頼し、原稿をいただいた。
4. 発掘遺構図に付した座標値は、平城宮内遺構、平城京内遺構ともに国土方眼第VI座標系による座標値である。高さはすべて海拔高で示す。
5. 遺構図には、遺構ごとに一連の遺構番号を付け、番号の前に、SA（築地・塀）、SB（建物）、SC（廊）、SD（溝）、SF（道路）、SK（土坑）、SS（足場穴）、SX（その他）などの分類記号を付した。なお遺構番号のなかには仮番号で示したものを含んでいる。
6. 平城宮出土軒瓦・土器の編年は次のように表わす（カッコ内は西暦による略年代）。平城京内についてもこれを準用した。

軒瓦；平城宮出土軒瓦編年第Ⅰ期（708～721）、第Ⅱ期（721～745）
第Ⅲ期（745～757）、第Ⅳ期（757～770）、第Ⅴ期（770～784）
土器；平城宮土器Ⅰ（710）、Ⅱ（725）、Ⅲ（750）、Ⅳ（765）、Ⅴ（780）、
Ⅵ（800）、Ⅶ（825；平城上皇期）

なお、本文中の軒瓦編年の細分などについては別途刊行予定の『平城宮発掘調査報告』XIIIの軒瓦編年に基づくものである。
7. 本文未収録調査については、巻末「その他の発掘調査一覧」を参照されたい。
8. 本書の編集は、部長町田章の指導のもとに、玉田芳英が担当した。

目 次

I	平城宮の調査		
1	兵部省の調査(1)	第205次	3
2	兵部省の調査(2)	第214次	16
3	壬生門北方の調査	第216次	28
4	式部省の調査	第220次	36
5	第一次大極殿地区の調査	第217次	44
6	宮北面大垣の調査	第215 - 6次	59
7	東院地区東辺の調査	第215 - 7次	60
8	内裏北方官衙・大膳職地区の調査	第215 - 13次	62
II	平城京・京内寺院の調査		
1	左京一条三坊二坪の調査	第215 - 5次	68
2	左京一条四坊三坪の調査	第215 - 8次	70
3	左京二条三坊六坪の調査	第215 - 1次	74
4	左京三条二坊四坪の調査	第215 - 16次	81
5	左京三条二坊九坪の調査	第215 - 3次	92
6	西一坊大路の調査	第215 - 4次	94
7	薬師寺講堂・北面回廊の調査	第218次	97
8	西隆寺旧境内の調査(1)	第212次	106
9	西隆寺旧境内の調査(2)	第219次	111
10	西隆寺旧境内の調査(3)	第221次	120
11	法華寺境内の調査	第215 - 15次	126
12	長屋王邸および二条大路出土の木製品		131
III	出土試料の理化学的分析		
1	第216次調査におけるプラント・オパール分析について		140
2	西隆寺跡から出土した土器に残存する脂肪酸分析		143
写 真	1 第214次 兵部省・朝集殿院間の掘立柱建物		
	2 第216次 兵部省東門と宮内道路		
	3 第205次 兵部省西南部全景		
	4 第205次 下層掘立柱塀SA1765		
	5 第205次 兵部省西第二堂		
	6 第220次 式部省西第二堂		
	7 第218次 薬師寺講堂と北面回廊		
	8 第219次 西隆寺 扉板を転用した井戸		

その他の発掘調査一覧



1990年度
平城宮跡発掘調査部発掘調査概報

1991.6

奈良国立文化財研究所